2019年7月15日発行

知る・見る・考える
八幡市民の
交流紙

きずな

Vol.8

発行元：NPO法人22世紀
八幡ルネッサンス協会
八幡市八幡高畑10-76
TEL・FAX 075-981-6505
発行：年4回

◆目次◆

八幡に活きる … 1
少年犯罪と少年法 … 2
宗教と社会 … 3
政治のはなし … 4
男山の森について … 6
八幡ルネッサンスとは … 7
創作彫刻 … 8
八幡の芸能 … 9
八幡 俳句歳時記 … 10
本の紹介 … 11
編集後記 … 12

八幡に活きる

ぬくもりのある商業施設に

大原 純孝・清美

1957年創業の大信商事株式会社の代表取締役をさせてもらっています。

八幡源氏垣外の「ファミレやわた」のオーナーですが、2007年に旧マイカル（ニチイ）が撤退した頃を知っている方からは、「ずいぶん賑わってきたやん」「繁盛してるなぁ」の声をかけていただくようになりました。お陰様だと感謝しています。

1969年、大阪市に生まれ、幼い頃に千里ニュータウンに引っ越しました。関西大倉高校、同志社大学に進学し、高校以来アメフト部に在籍し、休日には大学のアメフト部のコーチをしています。

「ファミレやわた」の建物が建つ前のこの辺りは更地で、石清水八幡宮の参詣客の駐車場に利用されたりしていたことを憶えています。

31歳の時に、大信商事の三代目社長に就きましたが、しばらくしてマイカルの倒産に立ち合うことになります。バブルがはじけたこともあり、経営がゆきづまったのでしょう。大信商事は、施設のオーナーとして賃料を主な収入源にしていました。2007年には撤退となり、その賃料が入ってこないばかりか、一定の資金も回収できず大きな痛手を被りました。だが、専門店6店が「私らも頑張るから社長頑張ってほしい！」の声に励まされ、奮闘努力の日々が始まるのです。

幸い、「コノミヤ」から声がかかりスーパーマーケットの店舗は埋まりました。但し、それ以外は空きスペースが多く、寂しい限りでした。八幡は、北と西は木津川と淀川で遮られ、橋本地区とは男山で分断されています。商業圏として不利な条件なのです。そこでどうするか！

八幡は、他の中小都市同様に高齢者が多い。だが、高齢者が多いことを逆手にとり、そのみなさんが喜ぶサービスを実施することで集客力を高めることができるのではないか、と考えたのです。目を付けたのが百円ショップ。妻には、東京に出向いて百円ショップの経営のノウハウを習得してもらい店舗経営に乗り出しました。清美さんは、何の知識もないところからの出発でしたので、この人には苦労させられると思ったものです、と笑います。

高齢者のニーズは何か。朝食は軽食かパンです。ならば廉価なパンを提供して下さるパン屋を誘致しよう。要望も聞きます。「トイレには温水便座がほしい」。身障者からは「段差をなくしてほしい」。来店されるようになった若いお母さんからは「授乳室がほしい」。それらの要望に対しても真摯に向き合い実現にこぎつけてきました。

顧客のニーズ、要望に応えることと、店舗誘致のための企業訪問をするうちに、地域のお客様への感謝のイベントを行うようになりました。2014年12月6日に、「施設開放」キッズフェスティバルを開催。ファミレやわたの屋上で、段ボール箱を材料にした工作コーナーや落書きコーナーを設け、市内を中心に200組以上の親子連れで賑わいました。翌年の11月3日には、屋内の空きスペースを会場に、「体験型」子ども向けイベントを実施（八幡市教育委員会後援）。科学教室やもの作り教室で子どもたちは学び、楽しみました。施設開放のフリーマーケットやマジックショーなども行い、冬は「振る舞いぜんざい」、夏は「振る舞いひやしあめ」、秋には「1階店舗全体で200円市」を展開し、販売促進を進めてきました。

施設内に店舗が増えるにつれ従業員の保育所の確保が課題となり、「スマイル保育園」が↖

↙開設。従業員のお子さんは無料で預かっています。

これからも、のんびりした空間を演出し、ぬくもりのある商業施設にしてゆきたいと思っています。

少年犯罪と少年法 終

播磨 義昭

「少年非行の要因について」に書きましたように、少年非行に関係する犯罪理論としては、年代順に分化的接触理論・非行下位文化論・社会的絆理論・漂流理論があり、その他の有名犯罪理論として、アノミー論（E・デュルケム、R・K・マートン）やラベリング理論（H・ベッカー）があります。

犯罪理論は、統制理論・緊張理論に分類されることが多いのですが、私は犯罪理論を「犯罪原因論」と「犯罪機会論」に分類しています。

犯罪原因論は、犯罪者の素質や犯罪発生の原因に焦点を当てたものですが、「割れ窓理論」の出現以降、犯罪機会論が注目されるようになりました。

「割れ窓理論」はアメリカの犯罪学者J・ケリングが考案した「建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓もまもなく全て壊される」という考え方によるものです。

1994年1月にR・ジュリアーニが市長に就任し、ニューヨーク市の治安が劇的に改善されるまで、ニューヨークの地下鉄は犯罪多発場所として有名でしたが、ニューヨーク地下鉄の犯罪防止対策は「落書き消し」から始まりました。このことから、地域における美化運動が犯罪防止に大きく貢献していることは間違いがありませんので、八幡ルネッサンスが行っている大谷川の清掃活動は極めて重要な活動です。

「割れ窓理論」以外にもT・ハーシの「社会的絆理論」（Bond理論）や、J・ボウルビィの「愛着理論」にも注目が集まっています。

T・ハーシは①Attachment（愛着）②Commitment（関与）③Involvement（関与による包含）④Belief（信念）を「Social Bond（社会的絆）」として挙げ、社会的絆が犯罪障壁になると述べています。

②Commitment（関与）③Involvement（関与による包含）の解釈については、研究者間に混乱が見られますが、社会活動に参加し「社会規範を内在化する過程」と理解すればよいと考えています

小学校6年生の頃、自宅近所に住む年長の不良少年から、何度も万引きに誘われましたが、警察に捕まることがなくても、母が息子の万引きを知れば悲しむだろうと思い、万引きの誘いを拒絶しました。私が万引きの誘いを拒絶したのは、母との強い絆が犯罪障壁として存在したからだと考えています。

J・ボウルビィの愛着理論は犯罪理論ではなく発達理論ですが、「愛着障害」によって生じる人間関係の失敗が少年非行に結び付くことがあることから、注目されるようになりました。

J・ボウルビィは英国の精神科医で、第2次世界大戦による戦争孤児の観察から「愛着理論」を導き出しました。愛着関係形成の難しいところは、愛着関係が生後6ヵ月から2年の間に形成されるという臨界期（ある時期を過ぎると特定行動の学習が成立しなくなる限界の時期）があることと、愛着関係を築く相手が主として母親等の特定の人のみであることです。

愛着関係を築く相手が特定の人のみであることから、乳児院等で複数の担当者が交代で乳児を育てると、愛着関係が築けないと考えられています。

死刑は恩赦により減刑されることがあり、無期懲役は30年を過ぎると仮釈放されることがありますので、若年の無期懲役受刑者は仮釈放により社会に戻ってきます。つまり、死刑に処せられる者を除き、全ての受刑者は社会に戻ってくることになります。

社会に戻ってくる元受刑者の社会復帰が順調に進まないと、彼等が再犯者となる可能性が極めて大きいことが明らかですので、社会防衛の観点から、元受刑者の社会復帰を積極的に援助しなければなりません。

元受刑者が再犯者とならないように、彼等の社会復帰を援助する際に我々に求められることは、彼等を「仲間の一員として受け入れる覚悟」だと考えています。

このことは少年院経験者や非行少年についても同じことが言えますので、元受刑者や少年院経験者を「仲間の一員として受け入れる覚悟」をもって、地域社会に受け入れることが重要だと考えています。

平成30年2月12日

宗教と社会 ⑤

浄泉寺住職　大原 光夫

今回は、「ジハード」の話です。まず、ジハードを「聖戦」と翻訳することが、そもそもの間違いの始まりです。ラマダンを「断食」と翻訳して、ごく狭い意味では外れていないものの、大きな誤解をひろげた翻訳であったことは前回お話ししました。

「ジハード」の正しい翻訳は、「神のために、奮闘努力する」という少し抽象的な表現ですが、原語に最も近い日本語であろうかと思います。

この翻訳提案者は、中田考（なかだたかし）氏（同志社大学高等研究教育機構客員教授）です。フーテンの寅さんの歌にも「奮闘努力のかいもなく・・・♪」と歌われているアレです。つまり、「神のために頑張るのだ」という、ムスリムの大切な努力目標です。イスラム教徒には5つの義務が定められていますが、それに加えて「奮闘努力」を決意すること。それがジハードです。ここからは、戦争・戦いという翻訳は出てきません。

紙面の都合上、いきなりジハードの内容に入ります。ジハードには、「大ジハード」と「小ジハード」があります。「大ジハード」とは、人間としての自分の内面にある醜いもの、つまりウソをついたことのある人。心の中で「こいつ死ね」と思ったことがある人。こそりと人のものを盗んだことのある人・・・。お互いには口に出せないことを私たちは人生の過去で、いっぱいしてきています。「過去一度たりともウソをついたことはありません」とか、「清廉潔白をむねとし、人の道に外れたことはまったく致しておりません」なんて、人前で言える人は、ただの一人もいません。

それどころか、今もやっているかもしれませんし、これから先も醜くて、決して口に出せないことを「誓ってしない」という保証はどこにもないわけです。

この内面の醜さと戦い、人間らしくなる、「真っ当な人間性を取り戻す戦い（奮闘努力）をしなさい」と教えているところがコーランの「大ジハード」の項です。この部分で「戦い」という翻訳は当たっています。

しかし、戦争につながる「他人にむかっての攻撃」という意味はありません。「ラマダンが待ち遠しい。真っ白な心で次の一年を迎えたい」と、前回お話しした内容は、実は大ジハード（神の教えに沿って奮闘努力する）の実践でもあるわけです。

前回のラマダンの話の中で、仏教の「はっ八さいかい斎戒」という戒律は、ラマダンの趣旨に大変近いと申しました。今回お話ししていますジハードも、仏教と共通するところが色濃くあります。

仏教では、人間の苦しみのおおもとは「煩悩」であるとしています。煩悩とは、①欲、②怒り、③無知の3つで、これを三毒と言っています。これを「滅却（消滅）」させることを、「苦しみからの解放（悟り）」としています。

三毒は自分の「醜い内面」ですから、大ジハードの説明で話しました。その醜い内面の意味とほとんどかわりはありません。「滅却」と「神の指示に奮闘努力する」という表現の違いはあるものの、何を滅却するのか、何のために奮闘努力するのか、それは同じものを指していると言えます。

このようにジハード本来の意味を考えていきますと、自爆テロや戦争にむかうにあたって「聖戦」と翻訳することは、どれほどの誤解をもたらすか計り知れません。

今回は、大ジハード（コーランの主たる教え）を見ながら、「聖戦」を考えてきました。一方、小ジハードを見ますと「聖戦」という翻訳に一部通ずるところがあります。しかし、少々当たっていることをもって、ジハードの「すべてを言い表せる」とするには無理があります。ましてや、大ジハードの根本的な教えを網羅していると考えるならば、明らかに誤った翻訳と見なさねばならないでしょう。

次回は、小ジハードについてお話しします。

政治の話をしましょう 第8回

「天皇の代替わり」を考える（その4）

日本キリスト教団牧師
千葉 宣義

今回は「天皇の代替わり」にともなう諸儀式に触れて、若干の報告をしてみたい。すでに、その最初の儀式であった明仁天皇（現在は「上皇」）と、その称号が変っている）の退位の儀式で、「退位礼正殿の儀」が、去る4月30日に、「国事行為」として行われている。

天皇の退位に伴う主な諸儀式は、30余に及ぶもので、先の「昭和」から「平成」への代替わりの儀式がほぼそのまま踏襲される。以下、主な儀式について述べてみる。

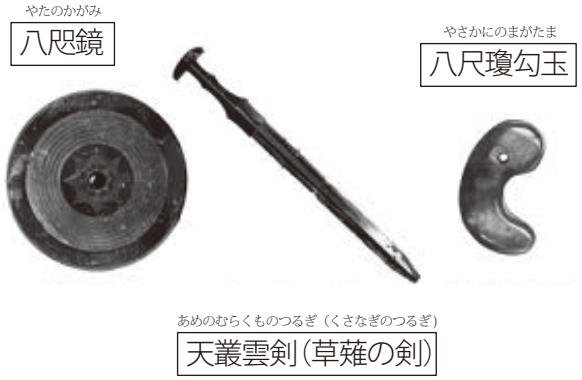
1、退位の礼正殿の儀

4月30日（国事行為）

先の「昭和」から「平成」の代替わりは昭和天皇の死と葬儀が行われており、今回と様子が大きく異なる。生前退位による代替わりは220年ぶりと言われているが、それ以前は、むしろごく当り前の代替わりであったとも、歴史家は説明している。

この儀式は、皇居の正殿松の間で行われるもので、その中心はいわゆる三種の神器のうち、剣と神璽（「勾玉」）と国璽（日本国の印）と御璽（天皇の印）を侍従が携えて、天皇と共に会場に入り、首相が「寿詞」を述べ、天皇が「おことば」を述べ、先の神器を侍従が「捧持」して退出するというものである。その儀式の前に、「皇室祭祀」と言われる天皇家が行う先帝への報告、また伊勢神宮への報告の儀などが行われたり、政府主催の天皇在位30周年記念の式典が国立劇場（東京千代田区）で行われたりしたことは、既にテレビ等で報じられた通りである。

三種の神器とは「八咫の鏡」、本体は伊勢神宮に、「草薙の剣」、本体は熱田神宮に祀られ、それぞれの分身（模造品）と勾玉（本体）が宮中にある。



2、改元と剣璽等承継の儀

5月1日（国事行為）

新天皇（徳仁天皇）の一連の「即位の礼」関係の新儀式が、この日から始まる。まず、新しい元号（「令和」、すでに4月1日に発表）が施行され、先の退位で侍従が携えた三種の神器のうち、剣と神璽、国璽、御璽が新天皇に継承される。この皇位継承儀式の中心は、戦前の「登極令」によれば、次の天皇が直ちに天皇の位に着く必要から、「践祚」という儀式が行われたが、「昭和」から「平成」への代替わり以降、「践祚」として「剣璽等承継の儀」を「国事」として行った。この神器の継承という儀礼は、明らかに「皇室祭祀」の宗教行事で、先の代替わりの時にも、この行事を「国事行為」とすることは「政教分離の原則」（憲法第20条、89条）に違反するという批判の声が挙がり、政府は、剣と璽は「御神体」ではなく、皇室の「由緒ある譲り物」であるとして、それを継承する儀式だから「宗教的行事」ではないと抗弁してきた。今回もこの例に従って、この儀式を国家行事と位置付けて行っている。

「即位後朝見の儀」の後、国民の代表として三権の長、地方自治体の代表などが参列して、新天皇が彼らに初めて会う儀式が行われる。

3、即位の礼正殿の儀

10月22日（国事行為）

①5月1日に皇位を継承した新天皇が、そのことを国の内外に宣明する儀式と言われるもので、「即位の礼」の中心的儀式とされている。

新天皇は「黄櫨染」の天皇だけの服を着、皇居正殿松の間に置かれた「高御座」に入り、「おことば」を述べる。前回は、首相が「寿詞」を述べたあと、万歳を三唱している。↖

↙この儀式には国内の各界や外国の代表など約2500人が招待されているが、今回も同様となる可能性が高い。

②「祝賀御列の儀」、儀式後（国事行為）

皇居宮殿から新天皇の赤坂御所まで、オープンカーでパレードする。先日、そのコースが確認されたとの報道があった。

③「饗宴の儀」10月22日（国事行為）

皇居豊明殿で祝宴が行われる。「平成」の代替わり時には4日間連続で計7回も行われている。豊明殿の祝宴は翌日（23日）に総理大臣夫妻の主催する晩餐会が行われる。この祝宴全体で約3千人が招待されていたが、今回はその規模の縮小が検討されていると言われているが・・・。

4、大嘗祭

11月14日・15日（皇室行事）

天皇は毎年、11月23日に宮中三殿でに新嘗祭（いなめさい）を行っている。この儀式で、皇祖・天照大神と天神地祇に「神饌」を供え、五穀豊穣を祈るもので、この新嘗祭を即位以後最初に行う式を大嘗祭（だいじょうさい）という。このために、皇居・東御苑に大嘗宮が新造され、この設営費だけで19億7千万円、大嘗祭関係費だけで27億1900万円（前回は22億4900万円）。秋篠宮はこの件に関し、公費支出について疑義を述べ、「私費（天皇家の私的積立金）」で賄える範囲で、毎年の新嘗祭の会場「神嘉殿」を活用するという案を示していた（「朝日」2018・12・25）。

↑新嘗祭

↓大嘗祭

大嘗祭は、皇室祭祀であり、「天皇が神性を身に付け、完全な天皇になるとされる」儀式と説明される。政府は公費を支出し、前回と同じ規模での開催を計画しているが、「政教分離」の原則にも違反するとして、前にもその合憲性を問う訴訟が相次いでいた。今回も、政府の公金支出の決定にたいして「支出差し止め」を求める宗教者・市民が東京地裁に提訴している。

この儀式のあと、11月16日・18日に皇居宮殿で「大饗の儀」が行われると言われている。

↑神嘉殿

立皇嗣の礼　2020年4月19日

秋篠宮が皇位継承順位一位（皇嗣）となるので、このことを明らかにする儀式が予定されている。

おわりに

以上が国事及び公的行事として行われる代替わり関係の諸行事の主なものだが、これらの諸儀式を実施するためには、そのための事前の宗教的、占い的行事などもあり、いずれも明治以後制定された「登極令」（1907年制定）などの旧規定（戦後廃止）を復活させて行うものである。戦後憲法との関係で天皇制という制度そのものを、日本国憲法という主権在民・人権主義・平等主義を謳う憲法下では押さえ難い違和感をあることは確かである。

「象徴天皇制」は、第1条によれば、「主権の存する日本国民の総意に基く」とあるように、広く、主権者である「国民」によって、そのあり方、そして、こうした代替わり儀式のあり方など協議する機会を広く求める必要があろう。その点でも、国会で、こうした儀式の在り方について広く公的に議論を積み重ねてきたという経緯は全くなかったと言える。宮内庁でも、秋篠宮の意見に「聞く耳を持たなかった」と言われるように、公的な論議がいつも避けられて、事柄が進められるあり方に深い憂慮を覚える者である。

了

男山の森は後世に残しえるのか？

～第7回八幡市民文化サロンより～

八幡市の象徴である男山は、古くから文学でも親しまれ、国宝・石清水八幡宮をいただくことから「京都府歴史的自然環境保全地域」の第1号に、そして「八幡市みどりの条例」のふるさとの森にも指定されています。天然林を数多く残し、多種多様な野鳥や里山の生き物が棲む、この自然豊かな山が、もしも〝ハゲ山〟になってしまったら……。そんな危惧が現実になるかもしれません。

第7回目を迎えた「八幡市民文化サロン」では、石野喜幸さんが太陽光発電建設設置のための山林の大規模な伐採による男山の自然環境の破壊と土砂災害・水害の恐れについて報告されました。

その内容をまとめてみました。

◇男山北西部山中（橋本東山本、八幡大谷地区）に、㈱コスモスエナジーによる太陽光発電施設の建設計画が進められています。0・95haの山林に5000枚のパネルを設置して1800kwのメガソーラーを建設する計画で、すでに道路や敷地造成のための森林伐採が行われ、年内に完成予定となっています。しかし今回の林地開発には、以下のような重大な問題があります。

①土砂災害や水害の恐れ

豪雨時に造成地内の表面水が谷筋に流れ込み、下流の八幡大谷の集落で土砂災害を起こしたり、大谷川の増水で橋本東山本に浸水被害をもたらしたりする恐れがあります。砂防指定地や土砂災害警戒区域（土石流）に隣接する山林を開発するのは無謀と言うほかありません。

②美観を損なう恐れ

八幡大谷の谷筋の北西斜面から尾根筋にかけて造成されるため、ちょうど御幸橋から遠望され、男山の優美な景観を損なう恐れがあります。

③山林の自然環境への影響

山林の奥まで幅5mの道路が建設され、工事中はダンプが頻繁に出入りし、竹林の管理などへの影響が懸念されます。また工事後はゴミの不法投棄などの心配があります。

④造成地の放棄や転用の恐れ

太陽光発電の売電価格は低落傾向にあり、山林の奥地を造成するのは相当の経費がかかるため、1ha未満の開発で採算が取れるのか疑問です。途中で撤退して造成地が放置されたり、住宅地や墓地に転用されたりする恐れがあります。

⑤開発が拡散する恐れ

今回の計画は当初5haの規模でしたが、手続きが厳しい京都府の林地開発許可を避けるため、八幡市に伐採届を出すだけですむ1ha未満に変更したものです。これを許せば、1ha未満の開発が男山山林全体に拡散する恐れがあります。

以上

熱心に耳を傾けていた参加者からは、「ほとんどの市民は、この問題を知らないのではないか」、「民間私有地が多く、喜んで手放す所有者もいると思う」、「ナショナルトラスト運動を考えてみては」など、伐採の写真を見ながら熱い意見交換が行われました。

八幡市に住み、男山を仰ぎ、散策する市民にとって、無関心でいられないことを痛感したサロンです。

八幡ルネッサンスとは

高畠 美代子

八幡山の麓に住み、八幡山の四季折々を眺めています。昨年は台風によって甚大な被害を受けましたが、最近の緑の成長が少しずつ元の姿に近づいているように感じられ嬉しく思います。

八幡山と同じく、私達も繰り返す四季とともに流れていきます。いろんな事が有りました。皆様もそうでしょうね。

八幡は元々文化的にも政治的にも水陸流通経路としても、非常に動的な地でした。三川の水路を有し、文字通り時代とともに激しく流れていました。

「流れ」は非常に重要なキーワードです。流れの有るところには、稚魚も含め元気な魚が潜んでいます。土地もそうですね。

八幡市の人口はもう何年も停滞しています。人が外から入って来にくいのは土地の衰退を意味します。人の流れを作るために、市政レベルでは工場誘致をしたりしますね。それはそれで重要な策だと思います。

しかし、本来八幡は自ら輝いていて外から好んで人が寄ってくる、そんな土地だったはずだと私は思うわけです。

団体名「八幡ルネッサンス」はなんとなく知っていました。八幡を誇りに思い美しくお掃除をする団体で、発行物は歴史好きな人向けに特化している、こんな認識です。偶然なのか何度か自宅ポストに発行物が入っていたので開いてみました。歴史好きな人向けの同人誌かなと思いました。

「ルネッサンス」の言葉やその意味合いが印象付けられるのは、熱量の多い意志的なイメージではないでしょうか。

「八幡ルネッサンス」の命名にどんな意味が込められているのかなと思って、紙面をあちこち探してみたのですが、それらしい記述は無く結局わからず仕舞いでした。

その後、偶然に代表の伊藤さんと話すきっかけがありました。伊藤さんは何に対してかはわかりませんけれど熱の感じられる人物でした。初対面でしたが、八幡ルネッサンスに参加してほしいと言われました。

「たしかに歴史小説を書きましたが、歴史に特別な興味はないです」

「いや、そんなのはよいから」

「掃除に参加できないです。フルタイムで働いて、家長ですし、母親の仕事もあり、毎日疲弊していますから」

「掃除はできるメンバーがしているからしなくていいです」

「じゃぁ何をするのですか」

「八幡を良くしたいとか思っていますか」

「それは思っていますよ、思うところは色々あります」

「そのことを書くといいです。なんでも書いてください。あと、会議に出るのはどうでしょうか」

「時間がうまく合えば」

断る理由がなくなって、話の流れに逆らう方法もなかったので、必然的にここに文章を書くことになりました。

掃除はしないと断言したので、その代わりにできる事を自分で見つけなくてはと考えました。普段バイクに乗っているので配達のお手伝いならできそうでした。

ある日の夕方、地図か何か資料をください、と突然ご自宅に伺いました。

そこで話し込むうちに、亡くなられた大切な奥様のお写真を拝見しました。

更に、奥様が精力的に描き溜められた美しい花の画集を拝見しました。香り立つような美しい見事な花々。

沢山の花々の生命力あふれる絵を見て私は、なぜ伊藤さんがご自分の行動を「ルネッサンス」で表現しようとしたのか、その気持ちを少し理解できたような気がしました。

「八幡ルネッサンス」を具体化し、実現しましょうよ。自ら輝いて外から好んで人が入ってくるような、八幡市の実現に向けてできることは何でしょうか。伊藤さんがチラッと仰っていた展覧会もよいかもしれないです。

内向きで自己完結では土地は良くならない、自然の摂理として衰退していってしまいます。

外に向かって働きかけて人の流れを起こすのには、どんな方法があるのでしょうか。それを皆様と共に考えて実行していきたいと思っています。

よろしくお願いします。

創作彫刻

―仏教の教えを彫刻に ④

加藤 錠治

成道

釈迦が厳しい修行の末、如来になったことを成道と言う。しかし大乗仏教では「大衆でも悟りを求めて修行に励みながら、他者を救済しようと云う理想に燃えれば、誰でも菩薩になり、やがて如来になることができる。」と説いている。これを表現した作品である。

成道の過程を顔の三層で現したもので、顔の一番外側は人であり、その下層に菩薩、中心が如来である。乱視になったと思わないでじっくり眺めると、少しでも如来に近づけるのではという思いがある。

即心即仏

本当の心、まことの心こそが仏であり、誰の心の中にも仏がいる。これが「即心即仏」であるが、意外と人はそのことに気づいていない。この作品は見えにくい心のあり方を誰もが気づくよう願いを込めて製作したものである。

胸の中の仏を生かして忘己利他に勤めようとする悩みを表情に出してみた。胸を開けることができれば、誰でもこのように仏が宿っているはずである。白隠禅師の座禅和讃は「衆生本来仏なり・・・」で始まる。人の心は仏であってほしいものである。

縁から空

「縁起・空」は、仏教の根幹をなす思想である。縁起は、「これがあれば、あれもある」「これがなければ、あれもない」という2つの定理によって簡潔に述べられる。このように縁起は有と無が論理的に結びつけられている。例えば、生まれなければ、老いることも死ぬこともないということである。空は、般若心教の一節「色即是空、空即是色」に記載されている。この世の全ての物事（色）は相互に因縁によって結びついており、物事は「存在している」とも言えるし「存在していない」とも言える。これこそ空の概念である。

また、般若経の空の哲学を大成した龍樹は、縁起思想にもとづいて空を理解した。更に禅僧は、空を象徴的に円で表現している。インドでは数学の0（零）を空とよんでいる。なお、縁、空、零については作品『無我』でも解説している。この様に「縁」と「円」、「零」、「無」、「空」などは関連してつながっていると考え、少々無理は承知で、縁はエン（円）と読み、円は丸い、丸は零であり、零は何もないから無であり、無は空である。これを図柄で「縁」→「円」→「丸」→「零」→「無」→「空」として表したものである。中央に弥勒菩薩を彫って、この仏教の根幹の教えを印象づけることにした作品である。

悪魔の花箭

法句教は一番古い経典で、東洋の「聖書」と呼ばれている。釈尊の語った教えを詩型にまとめたものである。全部で24章423の詩からなりたっているが、人生の究極のあり方を端的に示していて、沢山の有益な知恵をたたえている。

花の章の法句46に「悪魔の放つ花の矢」の一節がある。この詩に語られている真理・知恵を形に現した作品である。死王である悪魔は花の矢で人を狙い、射られた者は命を落とす。花箭は、キューピットの愛の矢とは対照的な死の矢である　この作品は、悪魔が法衣をまとって僧侶に化け、毒の矢で悟りを具えない愚者を狙っている姿を現したものである。死から逃れるには、悟りを開いて賢者になることで、賢者は花の毒矢を折ることができる。

悪魔は悪神の総称であり、判りやすく鬼を悪魔として選び彫ってみた。鬼の醜い、いやらしい顔で愚者を狙っている雰囲気を感じ出した積りである。また、花箭の矢羽は毒性の強力な朝鮮朝顔の花をかたどった。

八幡の芸能 2

面をかけ替える

猪飼 康夫

能に出演するとき、装束をつけると緊張は益々高まってきます。鏡の間で床机に腰をおろし、おし戴くように面をかけます。視野が急に狭くなり、鏡にうつる自分の姿しか見えなくなります。自分とお役だけの対面です。後見の手で紐が締められると、自分とお役が一体になっていくような気持ちになります。

「面をかける」ことは、演者にとって出演前の大切な儀式ともいえるのです。

能の世界では、衣装のことは装束、能面のことは面（おもて）と呼ばれています。

このように特別な表現が用いられているのは、能を大切にしようとする気持ちの現れではないかと思います。

また、面は「かぶる」とはいわず、「つける」または「かける」といわれています。私は、「かける」という言葉が最もふさわしいように思います。それは、まるで壁に額をかけるように簡単にかけ替えができるように感じられるからです。能の構成は前後二場に別れたものが多く、全く異なった役柄の前シテと後シテを同じ演者によって演じられるのが普通です。

前半が終わるとシテはいったん幕入りして、装束を取り替え、面もかけ替えます。

面には、神様や人、それも老・若・男・女、それに鬼、天狗などの種類があります。これらの面をかけ替えることによって、いろいろの役を演じ分けることができるのです。しかし、次のような批評を聞くことがよくあります。

前シテはよかったけれど後シテは力み過ぎだったとか、あの演者に「羽衣」を舞わせると素晴らしいが、「山姥」を舞わせるともの足りないとか。

↑本舞台・・・矢に取り付けた短冊を読む

われわれ素人ならともかく、玄人の場合はこれでは困ります。ここが能のむつかしいところだと思います。

ここで、目を能舞台から日常生活へ移してみましょう。

朝晩のラッシュ時には、大勢の人々がサラリーマンの面をかけて通勤しています。そして、会社に着くと課長の面や部長の面にかけ替えます。また、帰宅すると夫の面、父親の面、それに親に対しては息子の面とめまぐるしく面をかけ替えねばなりません。かけ替えを面倒がって会社の面のままおし通していますと、家庭の中に歪がでてくるものです。いくら部長の面や重役の面が気にいったからといっても、その役が終われば新しい役の面にすばやくかけ替えなければならないのです。

定年退職してからもまだ会社の面をはずせず、新しい舞台に上がれないでいる人が少なくありません。面倒がらずにできる限り数多くの面をかけ替え、いろいろの役を演じ分けられるように、常日頃から精進したいものです。

「行き暮れて木の下影を宿とせば花や今宵の主ならまし」

→鏡の間・・・忠度（後シテ）に用いる面（中将）をかけるところ

八幡 俳句歳時記 4

俳句はすきに読んでいいのです
―参考としての自句自解

小笠原 信

これまでに、蕪村、芭蕉さんの俳句について、有難くも自由気ままに書かせて頂きました。

ぼくは、25歳の時から、緑が多く川に近い八幡が好きで、この八幡市（当時は綴喜郡八幡町）に約40年間住んでいます（途中、枚方、寝屋川市に5年間流浪）。

俳句愛好歴は、25年余り。先生について俳句の実作勉強を始めて約11年です。先生は素晴らしいのに、生徒は頑迷な性格でなかなか上達できません。新聞の投句欄には時々載ります。柔らかい俳句、高校生にもわかる俳句を目指していますが、さてどうでしょうか？

今回、編集者から〈自作〉の解説をしてほしいと甘い誘いがあり、自己虚飾、自己顕示にならぬよう自戒しながら、初めての〈自句自解〉に挑戦してみます。

初鏡　補聴器の色　見せぬよう

場面（俳句では、景色とか景と言います。以下景と表現）は、補聴器を必要とするようになった女性が、新年早々に何かの会合に出かけようとして、鏡の前に居るところ。近年補聴器はどんどん小型化され、色も目立たなくなっています。その人が補聴器を使っていることを、出席者は既に知っています。しかし、本人には周りの人に気遣ってほしくないという思いがあるのです。その心を〈色（を）見せぬよう〉と表現してみました。

ぼく自身はお蔭様でまだ難聴の気配はありませんが、周りの人には耳の悪い人が多い。数えてみると合計7人。古稀の同級生にも3人。皆さん難渋しています。感度調整が難しかったり、高価なのに何回も紛失したり……。季語は〈初鏡〉で新年の句です。

まだひとの　かたちに昼寝　大方丈

景は寺の（宗派は問わず）大広間。大庇のある開け放った本堂のイメージも可。季節は夏、夏の盛り。

季語は勿論〈昼寝〉。

参禅会の昼食後かもしれません。数人の人たちが昼寝をしています。大広間で、ここはほどよく涼しい。前夜の寝不足を補うように爆睡している人もいます。他の人より一人先に目覚めて周りを見れば、寝相は様々。一瞬、人たちが死者に見えた！

テロで？　いやいやそんなことはない。昼寝覚めの幻影でした。よく見れば、まだ人の形を保っています。平和な午睡です。合掌したいほどです。

ちなみにぼくは、半刻程の昼寝を日々の（年金不足生活者の）最高の愉しみにしています！　この句の元になった句（本歌取り）は、〈まだものの　かたちに雪の　積もりおり〉という才人片山由美子さんの冬の名句です。尚、昼寝覚めの秀句に〈昼寝覚　百年使ふ　フライパン〉（加田柚美）という場外ホームランのような大好きな句があります。

秋の水　狼という　絶望種

景はどこかの河原。大きな川幅ではない感じ。その澄んだ川のそばに1匹の狼が立っています。冴え冴えとした明るい夜、喉が乾いて水を飲みに来たのかもしれません。川砂は白々としています。脇腹の骨が見えるほど痩せた狼。ニホンオオカミは明治以降絶滅したと言われています。だが、今、少し先に幻の狼はいます！

見通しのきく場所に出れば、仲間に出会えると思っているのかもしれません。しかし、自分が「最後の一匹」とどこかで思っているのです。種としての存続は、もう有り得ません。絶滅の前の淋しさと望み無し！　その痛切な絶望に（人類にも起こり得る）思いを寄せた架空の句です。

「秋の水、秋の水」と言っていたら瞬間的に出来た句です。架空、虚構（フィクション）の句を許容しないという写実写生のグループもありますが、ぼくは虚構の句を時々作り、〈虚構のリアル〉と唱えて楽しんでいます。

季語は〈秋の水〉で、感覚的には晩秋。尚、ぼくの尊敬する金子兜太さん（2018年2月ご逝去）の句に、〈おおかみに　螢が一つ　付いていた〉という印象的な句があります。

俳句は色々の読み方、理解の仕方を認める幅広い文芸です。読んで下さる人の参画で俳句は完成するとも言われています。どうか様々に好きに読んでいただき、「こういうふうに読んだよ」とお聞かせ頂ければ大いに喜びます。

本の紹介

佐藤 長作

『典獄と934人のメロス』

（坂本敏夫　著）

関東大震災は、1923年（大正12年）9月1日11時58分32秒ごろに発生した南関東および隣接地で大きな被害をもたらした地震災害です。このときの横浜刑務所は、建物50棟中24棟倒壊、16棟半壊。職員3名・収容者35名が圧死し、ほかに職員数名と収容者50名が重傷を負いました。

火災が迫りくるなか、椎名通蔵典獄（刑務所長）は囚人の安全を図らなければなりませんでした。法律では、「天災事変に際し囚人の避難も他所への護送も不可能であれば、24時間に限って囚人を解放することができる。」その決定は典獄に委ねられていました。椎名通蔵は、思案します。

――交通機関が破壊され通信も遮断されているのだから囚人を他所へ護送することはできず、軍の支援など期待できない。もっとも軍の出動は囚人たちとの軋轢を生みだす。それよりも現実的には食事の供給はままならず、なにより火災が迫りつつあるのに消火する術がない。このまま囚人たちを縛り付けておくわけにはいかない。しかし避難させるための解放が「脱獄」と誤って伝えられかねない。

明暦の大火の時、牢奉行・石出帯刀（いしでたてわき）は、獄中者を焼死させてはならぬと切腹覚悟で切り放し（解放）を決行した。それを浅草門の門衛が、「脱獄」と思い門を閉めてしまい避難民2万数千人が圧死、焼死してしまった歴史がある。たかだか150人ほどの囚人でも脱獄囚の一団とみなされる。千人にも及ぶ集団ならばどうなるか。そして何人還ってくるのか、多数の未帰還者が出るだろう――

〝解放〟は実施されます。懸念されたことは起こりませんでした。囚人たちは前向きな成果を上げます。

この記録は坂本敏夫氏が綿密な取材から書き上げたものです。NHKのドラマ化が決定しています。坂本さんは元刑務官でした。刑務官であったがために書けた記録でしょう。

※講談社刊、1600円（税別）

『あふれでたのは やさしさだった』

（寮美千子　著）

奈良少年刑務所の赤煉瓦建築に誘われ「矯正展」での繋がりから、少年刑務所の受刑者たちに詩の授業をすることになった寮美千子さん。刑務官たちは監獄法の改正に伴い社会復帰を目指した矯正教育「社会性涵養プログラム」を考えていました。

2007年から10年間で合計186名の受刑者が「社会性涵養プログラム」を受講しました。授業は月3回、その中で詩の授業は1回。6ヵ月で終了。それなのに1人として変わらない子はいなかった。大きい小さいの差はあっても、みな、良い方向へ変化した。

寮さんは、次のように感想を述べています。

――わたしは確信した。「生まれつきの犯罪者」などいないのだと。人間は本来、やさしくていい生き物だ。それが成長の過程でさまざまな傷を受け、その傷をうまく癒せず、傷跡が引きつったり歪んだりして、結果的に犯罪へと追い込まれてしまう。そんな子でも癒され、変われることがあるのだと、心から信じられるようになった。

教室を通してもう一つわかったことは、彼らがみな、加害者である前に被害者であったということだ。困難な背景もないままに、持って生まれた性質だけで犯罪に至った子など、一人もいなかった。「私だって、彼らのような目にあえば心を閉ざし、世界を恨みたくなる。」と思うような悲惨な成育歴も数多く聞いた――

しかし、奈良少年刑務所は109年の歴史を閉じて廃庁になってしまいます。これほどの更生教育の成果があるにも拘わらず廃庁とは残念です。この煉瓦建築は、ジャズピアニスト山下洋輔さんの祖父の設計です。建物は国の重要文化財に指定され「旧奈良監獄」として残ることになりました。

ある元裁判官は最近の、裁判員裁判を見ていると、まるで被害者の仇討の場になっているようで危惧を感じると語っていました。

最後に坂本さんの言葉、「命と正面から向き合うことでどんな悪党でも更正する可能性がある。これは、実際に死刑囚と向き合ってきた私の確信でもある。」

※西日本出版社刊、1000円（税別）

編集後記

●市民の文化交流紙として

「きずな」第8号はいかがでしたでしょうか。

巻頭の「八幡に活きる」では、「ファミレやわた」のオーナーである大原さんご夫婦にご登場いただきました。よくご利用されている方々には親しみのある商業施設です。町のニーズをマッチングさせた地域密着のあり方、そこへ至る苦労と工夫が垣間見え、ますます親しみと温かさを感じました。

播磨さんの「少年犯罪と少年法」は今号で最終回を迎えました。罪を犯した者であれ、〝未来のある少年たち〟という視座を揺るがすことなく、今号では社会活動との接点も学ぶことができました。

大原さんの「宗教と社会」はイスラム教に対する誤解をおもしろく解説していますし、千葉さんの「政治の話をしましょう」は、平成から令和へと改元した今年だけに、天皇の代替わりに関する興味深い内容です。また、仏教の教えを彫刻へと昇華させた加藤さんの作品の造形美と解説は、仏教の深さを感じさせます。

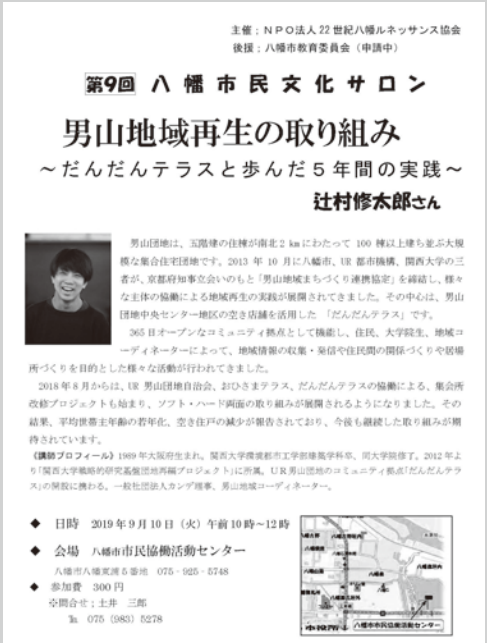
さらに22世紀八幡ルネッサンス運動に触れていただいた高畠さん、能の世界を現代風に解説してみせてくださる猪飼さん、軽妙な語り口で俳句の魅力を教えてくださる小笠原さん、そして「本の紹介」で新しく寄稿いただいた佐藤さんと、「きずな」の紙面は硬軟織り交ぜて、八幡に住む人たちの生身の思想や知識と智恵、そして声を届ける、まさに八幡市民の文化交流紙へとなってきたような気がします。

●市民の文化交流体験の場として

もう一つのお楽しみが「八幡市民文化サロン」です。2018年5月からスタートした同サロンは、土井三郎さんの「八幡の歴史を彩った人物」（今年7月9日開催）で第8回を迎えました。講師には、これまで「きずな」に寄稿していただいた方々をはじめ、八幡市外からもお越しいただき、社会・環境・歴史・文学など多彩なテーマでお話しいただき造詣を深めてきました。

さて、気になるのはこれからのテーマです。2019年度のテーマと講師は左記のように決まりましたので、お知らせします。

2019年
・9月10日
「だんだんテラス5年間のあゆみ」
辻村 修太郎氏
・11月12日
「木津川あれこれ」
河川レンジャーの方々
2020年
・1月14日
「福祉ってなぁに」
森川 正子氏
・3月10日
「市民共同で再生可能エネルギーによる発電事業をどう進めてきたか」
古家野 達也氏



主催：NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会
後援：八幡市教育委員会（申請中）

第9回 八幡市民文化サロン

男山地域再生の取り組み
～だんだんテラスと歩んだ5年間の実践～

辻村修太郎さん

男山団地は、五階建の住棟が南北2kmにわたって100棟以上建ち並ぶ大規模な集合住宅団地です。2013年10月に八幡市、UR都市機構、関西大学の三者が、京都府知事立会いのもと「男山地域まちづくり連携協定」を締結し、様々な主体の協働による地域再生の実践が展開されてきました。その中心は、男山団地中央センター地区の空き店舗を活用した「だんだんテラス」です。

365日オープンなコミュニティ拠点として機能し、住民、大学院生、地域コーディネーターによって、地域情報の収集・発信や住民間の関係づくりや居場所づくりを目的とした様々な活動が行われてきました。

2018年8月からは、UR男山団地自治会、おひさまテラス、だんだんテラスの協働による、集会所改修プロジェクトも始まり、ソフト・ハード両面の取り組みが展開されるようになりました。その結果、平均世帯主年齢の若年化、空き住戸の減少が報告されており、今後も継続した取り組みが期待されています。

《講師プロフィール》1989年大阪府生まれ。関西大学環境都市工学部建築学科卒、同大学院修了。2012年より「関西大学戦略的研究基盤型地域再編プロジェクト」に所属。UR男山団地のコミュニティ拠点「だんだんテラス」の開設に携わる。一般社団法人カンデ理事、男山地域コーディネーター。

◆ 日時　2019年9月10日（火）午前10時～12時
◆ 会場　八幡市市民協働活動センター
八幡市八幡東浦ろ番地　075・925・5748
◆ 参加費　300円
☎問合せ：土井　三郎
℡ 075（983）5278

少しだけ次回のテーマ「だんだんテラス5年間のあゆみ」に触れますと、近年ゴースト化が懸念されてきた男山団地の再生と活性化に取り組まれている辻村さんたちの様々な活動と実績を紹介します。ソフト・ハード両面の取り組みとは？　これからの男山地域に大切なこととは？　市民の文化交流体験の場から学びたいと思います。乞うご期待ください！

―「きずな」編集委員会―

◆協賛金のご協力をお願いします◆

（郵）00940-8-196292　NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会
（銀）京都銀行男山支店　普通預金 4165224　NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会